

## 1. 活動概要

けん玉は古くから世界中に存在し、現在も多くの人々に親しまれています。日本では江戸時代に紹介され、後に合理的な設計がなされた競技用けん玉が普及し現在の一般的な形となりました。けん玉の技は数多くあり、300種類以上とも言われております。そして、その技は現在もなお創作、開発され続けています。絵の具やカラーペンを使って、世界に一つだけのオリジナルけん玉を作ってみましょう。そして、今後も新しいアイデアを生む可能性を秘めているけん玉に挑戦してみましょう。

**ねらい:**無地のけん玉に色を付け、オリジナルのけん玉を作成することを通して、創意工夫する楽しさを味わう。作ったけん玉で遊ぶことを通して、けん玉の技能を身に付けたり、技を知るきっかけにする。

2. 活動場所 体育館、学習室、サービスセンター、体験の家

3. 所要時間 1時間程度

## 4. 準備

《自然の家》けん玉木地・絵の具、又はカラーペン・筆・小皿・新聞紙

5. 費用 550円 (けん玉木地、絵の具又はカラーペン)

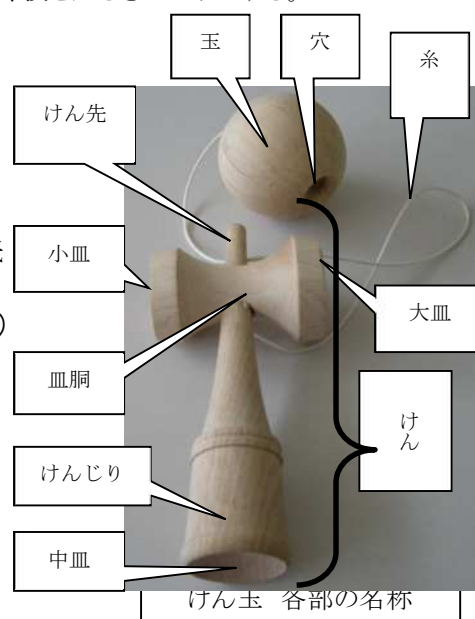
## 6. 活動内容

①絵付けを行う場所を決め、上記の道具を用意します。

②けん玉木地に絵付けをします。絵の具が乾いてから遊びます。

\*\*\* 技の一例 \*\*\*

1. さら：玉を皿に乗せる最も一般的な技。
2. もしもしかめよ：皿に乗せる動作を繰り返し、持続時間を競う。
3. とめけん：玉を垂直に引き上げ、けん先で受ける。
4. 飛行機：けんを玉の穴で受ける。
5. ふりけん：玉を回転させ、けん先で受ける。
6. 一周：玉をけんの大皿・小皿・中皿・けん先で受ける動作を連続して行う。
7. 灯台：けんの中皿を下にして玉の上に一定時間立てる。
8. すべり：けんに乗せた玉をけんから離さずに別の場所に移動させる。
9. まわし：玉を空中で回転させけん先で受ける。けんを空中で回転させ玉の穴で受ける。
10. うぐいす：玉の穴がけん先側か、けんじり側の大皿のふちに接した状態でけんに乗せる。
11. 極意：玉をけんの上の不安定な場所に一定時間乗せる。
12. 静止：けんを、不安定な形で玉の上に一定時間乗せる。
13. 空中：糸が張った状態で放り投げ、けんを玉の穴で受ける。または、玉をけん先で受ける。
14. あやとり：けんを糸で作った輪に引っ掛ける。



けん玉 各部の名称

## 7. 実施上の留意点

- ・同一色は、同一の筆で染め、色を混ぜないようにします。
- ・床や机などに絵の具をつけないように気をつけましょう。
- ・作業後は筆や皿を念入りに洗い、用具を返納します。また、活動場所も清掃します。
- ・使用するけん玉は、「検定けん玉」ではありません。ご了承ください。

作品例

